

令和6年度 第3回古賀市文化芸術審議会議事録

日 時：令和7年1月30日(木) 14時00分～15時20分

場 所：市役所第一庁舎4階第一委員会室

出 席：審議会委員 都甲康至会長、吉田公子副会長、谷口治委員、柴田智子委員、
松田信一郎委員、伊藤綾委員、大音明洋委員
事務局 桐原誠教育部長、柴田博樹文化課長、文化振興係(平係長他1名)

欠 席：村山公之委員、杉村幸一歴史資料館長

傍聴者：なし

配布資料

- ① レジュメ (事前配布)
- ② 資料1 団体のアンケート案 (事前配布)
- ③ 資料2 行政の文化芸術関連事業報告書案 (事前配布)

- 1 開会のことば
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項

(1) 第2期古賀市文化芸術振興計画の進捗管理に係るアンケートの設問項目について

都甲会長：はい、事務局より進行を引き継いで参りたいと思います。今日の協議事項は2点です。まず(1)にて第2期計画の進捗管理に係るアンケートの設問項目について、ということで昨年より継続の審議かと思いますが、その内容がある程度まとまってきましたので、今日ここで、審議をしたいと思います。

① 団体の項目及び内容について

都甲会長：協議に入る前に事務局より、まずは団体分の設問項目等について、説明していただけますか。よろしくお願いいたします。

事務局：はい。それでは、協議事項(1)①団体の項目及び内容の資料について説明させていただきます。資料1をご準備ください。

資料1-1では、団体アンケートの目的や、確認の手法等について記載のものととなります。資料1-2の設問9の修正がありましたので、下部に記載の「評価」の基準の文言について、「貢献している・していない」を追記しております。

続いて、資料1-2のアンケート本文です。前回審議会よりご意見いただき、修正した個所について説明します。

まず、会員数を記載する箇所について、右端に市外在住者の項目を追加しております。

次に、設問2「団体等の活動目標」の④について、冒頭に「災害時でも」という記載がありましたが、平常時に「災害時」というものだけ見ると本来意図していた意味「そういった中でも文化の灯火は消さない」「そういった環境にあっても文化芸術は続けていきましょう」ではない、別の意味として捉えかねられないということで、アンケートでは「災害時でも」の文言は削除させていただきたいと思います。

次に、設問6-1及び6-2、7の「古賀の「たから」」に関する問いに対してです。こういった古賀の「たから」を活用したのか、また、団体の考える「古賀の「たから」」とはということで、お尋ねする項目に修正しております。

次に、設問9「市民のビジョン」に関する問いに対してです。もともとは団体の自己評価としておりましたが、ビジョンに対して、どの程度貢献できたのか、という問いかけに修正しております。併せて、市民のビジョンでも④の冒頭に「市民が予期しない災害が発生したときでも」とありましたので、設問2④「災害時」と同様の理由により削除しております。

最後に、設問10及び11の「古賀市の環境」に関する問いに対してです。こういったところが「活動しやすい」「活動しにくいのか」をお尋ねする問いとして設問11を追加しております。

以上が、資料1の説明になります。

都甲会長：ありがとうございます。そうしましたら、アンケートの設問項目自体は、前回も行っていきますので、各項目の表現について分かりにくいとか、何らかのご意見がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

はい、谷口委員。

谷口委員：はい。谷口です。この中で、前回の内容で盛り込まれてないというよりも、お話しなかったと思いますが、設問10の「古賀市の環境はどうか」ということがありますが、いろんな文化団体があって古賀市内でも活動しているけれども、市外でも多く活動されているところがあります。

そういったところは、古賀市と古賀市外の施設とかで、活躍じゃないけど、活動しているときに、他のところはどうだったとか、古賀市と比べてどうだったとか、そういう比較があればいいかなって。今までの審議とは別で、追加になりますが、あったほうが比較できて、今後の検討ができるのではないかなとアンケートを見ながら思いました。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。市外でも活動されてらっしゃる団体さんがいらっしゃるということですね。

谷口委員：それも分かればいいかなということです。比較して、市外の施設の利用とか、設備・施設を利用とかで、たぶんこの人たちは「古賀市で活動している」という「古賀市」のアピールもしていただいていますよね。そういうことも含めて、古賀市の文化のPRもされているので、こういう団体が、今までは「古賀市内でどういう活動をしているか」でアンケートがとられているけれど、市外の評価というか、市外でどういう施設を使われていて、使いやすかった・使いにくかったとか、古賀市との比較、リーパスの使い方、ここが良い・ここが使いにくいとかいうのも評価として出てくれば、文化事業というか、これからの施策に必要じゃないかなと思って提案させていただきました。

都甲会長：はい、ありがとうございます。他の委員の皆様いかがでしょうか。

では、大音委員。

大音委員：今の谷口さんの質問とも関係しますけれども、評価について、一般的に評価が、例えば設問2とか、それから、設問9、10のところで、いわゆる活動評価が、何て言いますか、拡充とか、設問2の場合だと「拡充」「維持」「見直し」とかありますよね。

そのときに、ここが分からないので質問なんですけれど、こういう結果が出て、どこかに丸をつけていきますよね。その場合、補足説明というものはありますか。例えばこういう理由でこんなものがあるんですよ、とか、それから例えば設問11とかにあるように、こういう文章

で、例えばこういう活動をしにくいとか、そういう、何と言いますかね、団体さんが「どういう評価に至ったか」というような説明といいですか、そういう評価のことが書けるのかが分らなかったんですよ。

いきなり「拡充」「維持」というか、丸をつけてもらっても、たぶん正当な評価といいですかね、そこが全部分からなかったんで、どのようなのが上がってくるのかだけまず1点教えてもらえませんか。

都甲会長：はい、事務局。

事務局：はい。まず大音委員からの質問ですが、これはあくまでもご自分たち、アンケートを答える側の評価ですので、どちらかというと、細かくヒアリングをできるわけではないので、また事細かに書いていただくというようなアンケートではあまりなじまないのかなと思いますので、ここでは一旦このような形でとらせていただいたほうがいいのかなというふうに思っております。

もちろん「なぜそういう理由で拡充されたんですか」「維持にされたんですか」というのが分かるとうれしいですが、アンケートの中身では厳しい部分があるのかなと、場合によっては、ヒアリングをさせていただいて「これはこういうことなんですね」ということができればいいなというふうに思っておりますので、第1段階としてこういう形でさせていただければどうだろうかというふうに思っております。

それと、先ほどの谷口委員の「市外との比較」ということでいただいたので、正式見解とはちょっと言い難いかもしれないんですけど、確かに大事な視点ではありますけれども、今申し上げた部分をアンケートにしてしまうと混乱が生じるのではないかなというふうに思っています。

団体さんのお困りごとを聞いていますので、市外でどのようにされたっていうことを、付加的に書いていただくのは非常にありがたいのですが、全ての団体さんに対して聞くと、どちらかといえば、あまり他所で活動されている団体さんが多いわけではないのかなというふうに思っておりますので、慎重に審議、審議というかこちらのほうで検討させていただければと思っております。

以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。谷口委員、大音委員の件ですが、この項目内容というのは前回のときの第1期のときとは大幅に変わって、というよりも、参考にしながら改定している状況になっています。

このため、アンケートが本当に有効かどうかっていうのは、まず、やってみてはいかがでしょうかというのが、前回の審議会で私の方からご提案させていただいたと思うのです。

その中で、見えてくるもの・見えてこないものというのは、今後、修正して、より良く、より良いアンケート内容項目にすればいいのかな、というふうに捉えたらいかがでしょうかということで、いかがでしょうか。

はい、大音委員。

大音委員：すみません。なぜかというとはですね、去年、1回目の審議会資料を見させていただいたときに、令和3年度の調査のアンケートがあったんですよ。それを見ますと、いわゆる、いろんな評価のところで、例えば「文化活動を行うにあたり便利または不便な点について、ご記入」だからいいんですけども、例えばいろんなところで、補足説明でかなり書くようになって

いる項目があるものですから、それを見たときに、先ほどの質問とは、いわゆるここにつけた、どういう評価したときに、何か一言、こういうブランクのところがあって、書いていただければ、次の資料にも関係するんですけれども、各課がある評価をするわけですよね。次の段階で。各課が。例えば次の資料にありますけれども。そういったところの人が、分かりやすいのではないかなという意味ですね、私も行政側にいたんで、そういうのが助かるなと思いついて、必要な評価ができるのかなあと思って、それを質問で差し上げた次第です。

都甲会長：はい、事務局。

事務局：整理させていただきますが、これを、まず資料1については、団体に対してのアンケートですので、団体から出てきた分を我々が評価するというのではなく、団体は団体分にまとめて集計をいたしますので、そこに我々の評価が入る余地はないと考えてください。このため、出てきたものを集計して、傾向を捉えるという形にさせていただきたいと思いますので、その中で気になったことがあれば、先ほど会長がおっしゃったように、次のアンケートに反映させていくという形でどうだろうか、ということです。

これをもとに、「正しいかどうか」とか「もっとこうやればいいよ」ということを我々がどうこうということとはございませんので、次の部分については、行政の中の行政がやったことについてまた違った評価になりますので、そういう捉えでお願いできればと思います。

大音委員：はい。分かりました。

要は、これは、まずは、表現よくないですけれども、第1段目の評価という、向こうの評価といえますかね、こういう結果ですよというのが上がってくると。それをもとにまた、事務局の今の発言では、それをもとに、また次の質問があるかもしれないと。そういうふうな感じで捉えてよろしいですか。僕はそれだったら、それでオーケーなんですけども。

事務局：はい。それに対して、必要に応じて、ということになります。

必ずではないですが、疑問点のところについてはあるかもしれませんということをお願いします。

大音委員：分かりました。

都甲会長：それで谷口委員のご提案ですが、市外での活動という、このアンケートその項目自体が、各団体さんの活動ということで、特に市内とか市外とかっていう表現はしてなかったかとは思いますが。それで、市外で活動をされている方も、これで書けるかどうかということかなと、まず一つは思ったのですが。谷口委員はちょっと書けないかなということで、もう少しそこを表現上工夫したほうがいいのではないかと、というふうに捉えてもよろしいのでしょうか。

谷口委員：このアンケートを見た感じでは、市内市外でなくて、古賀市内を限定みたいな感じで、古賀市のアンケートってなるから、活動領域として他のところも広がっていて、ただ事務局が言われたみたいに、これ1回出してみても、その後で、こういう案件が必要だなという、また2次の協議のときにでもいいと思う。

ただこれを改めて見たときに、そういう目線もあるのかな、こういうことも必要じゃないかなと思い、今言っただけですので、次回の集計が出た状態で、また皆さんと検討するときに追加で必要かなとかいうのは確認しながら、そういう目線があるのかなという形でも私は構わないと思っています。

都甲会長：はい、ありがとうございます。吉田副会長。

吉田副会長：はい、吉田です。今の谷口委員のお話のことで、例えば設問5の「活動を行うにあ

たり、これまで交流や連携を行ったことがある対象について」という項目で、その他、「他の文化団体」「自治会」「学校」だから対象が古賀市以外の方を対象に、っていうお話ですね。活動の場所と、参加した場所、ということかなと。

谷口委員：意味としては、そういう古賀市内と古賀市外というか、ここの古賀市内の文化に対する施策と、他所に行った時、他所の行政、事業体とかいろんな施設とかに行った時に、その分の比較が出ればなと思ったりしています。だから私がいいとこ悪いとこっていう何かそこでの活動を通じて、いろんな古賀市の団体が他所の、例えばユリックスで実施したときは、こういうフォローとかちゃんとあったとか、設備がよかったよとか、書き方がよかったということが出てくれば、ここでの施設の運用の仕方とか、そういうのが見えてくるかなと思って発言しています。

吉田副会長：比較を、ということも挙げられるんですけど、段階的にアンケートを今後よくしていくっていうところを考えていこうかというお話だと思うんですが、例えば設問5のところ、「その他」のところにあたるように、ここに「市外での活動」とか、そういう項目があると、この団体は市外でもやったんだっていうのが今回のアンケートで拾えて、どれくらいの数が市外で活動されている団体があるのかっていうところを、まず、何かこう、拾うことができたらいいいのかなとか思いました。

そして次に、他の施設がどうだったのか、そのことを踏まえて今後古賀市でどういうふうに考えていったらいいのかっていうふうなことになるばいいのかなというふうに思いました。

都甲会長：はい、ありがとうございます。

設問5の「その他」もそうですが、アンケートの設問1を「活動の有無と場所」とかにして、その場所についてが「市外」「市内」という項目を入れてチェックする大枠にすれば、この団体は、市外でも活動しているのだなとか、大半は市内でやっているのだなという、何かふるいにかけてられそうな気もしないでもないですけど、いかがなものでしょうか。お聞きしながら思いました。

谷口委員：ご判断を委ねますけれども、ただの1段階でして、やはり「古賀の活発化をする」というのを他所と比較して、他所の施設とか、市外に出て、こういうことで、いろんな例えば、糟屋地区〇〇とかでいっぱい出られていると思うんですね。

糟屋地区文化祭とか、福岡 I ブロックとかまだ上位のほうに、いろんな団体でそこで出られるんです。絵画とかいろんなものを含めて。特にその運営とか見ていて、そういうとこで、やっているところが違うなとかやりやすいなとか、古賀がよかった、やりにくいなとか、そういうものが改めて見えてくるのを反映して、古賀の新しい文化芸術の潮流じゃないけれど、他所の良いところも、悪いところも、取り入れて、進められればいいかなというんで、そういうので見えたらいいいなと思っていました。でも、そういうことを検討していただければと思っています。

都甲会長：はい、ありがとうございます。

非常に貴重なご意見だと思いますので、一旦アンケートをとってみて、その結果次第で、その次、内容をもっと深掘りするときに、検討してもいいかなと思いますね。それと、もう一つ思い出したのは第1期のとき、活動の評価をするときに、単純なアンケートの集計だけではなくて、ヒアリング調査を行いますか・しませんかということを議論し、結果的にはヒアリング調査はしなかったのですが、もしかするとそういう必要性が第2期の後半の評価のときに

必要になってくるかもしれませんね。というふうに思いましたので、継続、議論、検討していければと思いますので、いかがでしょうか。よろしいですかね。

はい、伊藤委員。

伊藤委員：はい。その今の設問11のところで、結局どのようなところが活動しやすい・活動しにくいですかという質問なので、その答え方によっては、他のところがこういうふうだから活動しにくいとか、回答者によって答え方が、そういうふうに記載する人もいるのではないかなとは思ったので、そういう意味では一応、質問内容をこのままにしておいて、どういう回答かによって、その次のときの質問内容を変えたらいいかなと思いました。

都甲会長：はい、ありがとうございます。

都甲会長：他は、いかがでしょうか。はい、柴田委員、よろしくお願いします。

柴田委員：はい。先ほどの伊藤委員の分でいいかと思うんですけども、やはり市外の分とかを具体的に、あまりいろいろ書くと面倒くさいのかなと思うんですけども「その内容をご記入ください」というのを「具体的に分ければご記入ください」とか、ちょっと言葉を増やすとか、そういうのもいいのかなと思ったんですけども。全体的にアンケートってちょっと堅苦しいのかなっていうちょっと感想です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。堅苦しい、いろんな方のいろんな思いがありますからね。

柴田委員：いや、内容的には分かるんですけども、やはりその事業をして、その団体の方がその事業に対して楽しかったとか面白かったとかやっぱり達成感っていうのが、やはりこれからの活動のまた励みにもなるんじゃないかなあと思ったので。何かちょっとそういう言葉とかが入るところがあれば、アンケートも、もうちょっとここを工夫すればよかったとかいう何かが出てくるんじゃないかなあと思いました。

言っていることを、ずっと考えると難しいかなと思うんですけど、その文化のところ、そのたからとか、いろいろ考えていろいろ活動されていらっしゃると思うんですけど、まずその事業に対して、自分たちがしたことに対して達成感、面白かった、楽しかったという言葉から何か反省点とかいろいろ発展していくんじゃないかなあと後で思ったものですからちょっと言ってみました。

都甲会長：はい、ありがとうございます。おそらく柴田委員が気にされているかもしれないのは、例えば、設問2の項目について、また活動目標に対して、ここでは丸をするだけの評価なんですけれども、この達成感でここがよかったとか、これもうちちょっと頑張ったかったとかっていう、そういう気持ちが表現できるといいのかなっていうことなんですかね。

柴田委員：そうですね、まず何かそこから入っていくんじゃないかと。言葉にすると難しいのですが。

都甲会長：分かりました。はい、谷口委員。

谷口委員：はい。柴田委員の今の意見とても賛成ですね。これ、説明、資料の1-1、1-2のみを見て、回答を書いているときに、このビジネスライク、活動の客観的な表現のとり方になっていて、1-1のところに最初に「あなたの団体はどんなわくわく感で日々活動されていますか」とか「今、この内容で古賀市のいろんな参考にしていきたいんで、以下の質問の回答をお願いします」とか「どんなわくわくで頑張っていますか」みたいなのをちょっと入れてしまえば、回答のときに「楽しかったからもっと続けよう」とか、これ自己評価につながるんだと思うの

で、各団体の自己評価につながる質問だから、今までこんな感じでやっていたけれど、こういう見方があったからという形でアンケートに答えてもらえれば、何かすばらしい、こう、このアンケート自体が活動っていうか、団体の力になるっていうか、肥やしになるような感じもするんですよね。

だから1-1をちょっと表現を変えていただいて、わくわく感というか、その感じが出たらとてもすてきなアンケートかなと思えるようになりました。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。はい、大音委員。

大音委員：全く今の意見と同じなんですけど、要はですね、全体的に、今言われたような、何かこうやっていて、「ここがよかった」とか「楽しかった」とか、いや「苦勞したんだよ」というのが、先ほどの質問と同じなんですよ。細かいことでなくても、これを評価したときに、そこがプラスアルファで見えるようにしていたほうが面白いという表現はよくないですが、そういうことの方が分かりやすいのかなと。

そうすると、先ほど言われたように、もし第2弾の質問をするときに、こういう観点をもっと深く掘り下げようとか、質問というか何か教えてくださいよ、といったところにもつながるのかなと思ったんです。

今の僕の質問と皆さんの先ほどの質問から、何かそういうのをすれば、向こうも単にアンケートを求められているという気持ちがなくなって、プラスアルファがあれば、来年の（アンケートを）ばっちり（作成）するというようなことが出てくるのかなと思った次第です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。事務局、何かあります。

事務局：答えになるかどうか分かりませんが、大分ハードルが上がったなという印象がありますけれど、まずアンケートをとるところでできるだけ気持ちよく、そしてなおかつ手間をとらせない形でお願いして、できればなという思いがあり、やや事務的ではありますが、表面的なことを聞くような形でさせていただいております。深いところを聞いて云々っていうことではなくて「傾向を捉えるためのアンケート」というふうに考えておりますので、皆さんに聞いて大体これぐらいの答えが返ってくるだろうという想定の中でやっている部分もありますので、こういう形にさせていただいておりますし、これより深いところということは、もう先ほどから何度か申し上げておりますけれど、必要に応じてヒアリングをさせていただいてという形のほうがいいのかなと。

あくまでもその傾向を捉える、トレンドをつかまえるためのアンケートというふうに解釈していただけると。それでどうでしょうかという話です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。

吉田副会長：谷口さんと柴田さんと大音さんのお話を聞くなかで思ったのは、例えば、設問2の団体との活動目標の、これは評価を中心にアンケートを聞いているんですけど、谷口さんと柴田さんの実際にその団体の中で活動する中では、この活動目標以外でも、何か楽しかったこととか、やりがいがあったこととか、何かそういうものが出せる場所があったらいいのかなというふうに感じました。

その活動目標とその他のところ、活動目標については、この評価で、ちょっと事務的なんですけども、今回傾向をつかむと、それ以外の、例えば設問2の後に、3番目の項目として、2の他に、活動する中で楽しかったこと、わくわくしたことがあったら、書いてくださいっていうようなのがフリースペースであると。おそらくこれ、イメージとしては、皆さん団体でこれ

を広げながら、これどうかなとか、団体の中で話をしながら作成するイメージでいいんでしょうか。

柴田委員：まとめる方がいらっしゃって書かれるのかなあと思うんですけど、まず最初に、一つした事業に対して、まず反省で、楽しく、みんなよく頑張ったねと、意見が出ると思うんです。そこから考えて、アンケートに、という形になるんじゃないかなあと思って、まず、事業をしたこと自体が失敗だったとか思うときもあるかもしれないから、そこら辺の最初の、自分たちの個人感情というか全体の反省が、いろいろ古賀市のそういうのを使った分の評価をしていくんじゃないかなと思ったんです。

最初に、全体の自分たちの団体の1事業について全体の評価っていうのをまず考えると思うので、「そこが楽しかった」「もしちょっと駄目だったかな」とそういう評価があってそれから今まで使ったいろんなことに対してアンケートっていうか、調査を今度されるのかなと。話し合いでまとめていって、上のほうでまとめられるかもしれないし、そういう感じかなと思いました。

吉田副会長：今のお話を聞くと、団体の活動目標に応じてみる、というよりは、切り分けるのではなくて、例えば、設問1の後に、1年間というか、振り返ってどうでしたかっていうのがあって、それから、この設問2の質問があるというふうに柴田さんは感じられたということですね。

柴田委員：設問2で、その下に入れて、団体の意見っていうのは反映されるのではないかと。

評価を自分たちでするのはちょっと難しいかなと思うんですけど、まず、ワクワク感とか不安とか、そういう何かした達成感というか、そういうものが最初にあるといいのかなと。

吉田副会長：事務局のほう、いかがでしょうか。活動目標の評価だけではなくて、そうではない活動全体にわたることがあったほうがいいのか、というふうに思います。今決めるのはむずかしいかもしれませんが。

事務局：うまく伝わるかどうか分かりませんが、どこまで深掘りをしていくかっていうところになると思うので、あくまでも目標に対して率直な意見として、どれくらいまでされたと思いますか、というような問いがメインになると思いますので、先ほどからも再三申し上げますように、表面的なところでとまってしまうっていうのは申し訳ない気持ちはあるんですが、あくまでも傾向を捉えるで、それでも課題だということを、何かしら深掘りをするという形のほうがいいのかなと。

最初からアンケートでいろんなところを欲張ってしまうと、何かこう、取り留めないと思いますが、統計としてはちょっと怪しくなるのかなというふうには思っておりますので、記述に対しては、何とかこうカテゴリー分けとかはできるんですが分析も非常に難しいところでもありますし、なので、一旦、こういう統計としてやりやすいところでさしていただければありがたいなというふうに思っております。

以上です。

都甲会長：はい、松田委員。

松田委員：はい、松田です。このアンケートの目的は、やはり振興計画があって、それをやっばり達成していただくためのアンケートだと思うんですよね。

それで、要するに進捗状況はどうなのかということと、それと先ほどからおっしゃっておられるように、傾向ですね。各団体、傾向というのはどんなものかという把握ということで、こ

れがもう最終のアンケートじゃなくて、まだ今後、段階的にまた実施されると思うんですね。

これで結構だと思うんですが、ただ、谷口委員から出た「古賀市以外の環境で活動する団体」もかなりあるんですよね。それと、もう古賀市の中だけでしか活動していない団体もあるし、それがまだ全然把握できませんので、もしよかったら、この設問10の項目の中に、これを2段書きにして、古賀市以外で活動しているところがあれば、そこを記入してもらおうとか。谷口委員の提案を採用してもらいたい。

それと、やっぱり私たちもしみじみと「他所はどうなのかな」というのを知りたいですね。

やっぱり傾向、比較もできますので、それで、今回やるか、次の時やるか、どちらでも結構ですけど、その辺りも考えてほしいなと思います。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。前回のときの調査の実施主体は、どうだったのでしょうか。

事務局：はい、審議会のほうでは、中身を見ていただくと、実施主体としては古賀市と教育委員会となります。

都甲会長：はい。ですので、審議会としては答申までですよ。振興計画も答申まででしたね。実施主体は教育委員会からだったと思います。

事務局：そのとおりです。

都甲会長：はい、では事務局。

事務局：先ほどより委員の皆さまにお話いただいているんですが、こちら、非常に大切な視点だと思いますが、ただ、この場でこうしたらいいというのを今おっしゃっていただきましたので、これに関してまた会長等とご相談させていただくということでご了承いただけるとありがたいなと思っております。

都甲会長：はい、一旦そうしましたら、私のほうで預かり、事務局と相談をするということで、この件よろしいでしょうか。

谷口委員：はい。

都甲会長：ありがとうございます。

おそらく設問1の項目を少し変えるかもしれないですね。「活動の有無」ではなくて「活動の概要」というところに、まずタイトルを変えて、その趣旨を少し説明しようかなというのがたぶん、落としどころとして分かりやすいため、まず初回としては、そういうふうに行っていければと思います。

「(1)①団体アンケートの項目及び内容について」を今審議していますが、このまま団体のアンケートの実施、とりあえず実施してみるという、時期と対象ということについて、引き続いて審議したいと思いますが、事務局、よろしいですよ。

事務局：はい。

都甲会長：引き続き「(2)第2期古賀市文化芸術振興計画の進捗管理に係るアンケート」の団体のアンケートに関わるものについて、いつ頃実施して、その対象は、というところを審議していきたいと思います。

前回の審議会でも私のほうから、このアンケートをもとに、まず、少数の団体でも、一旦実践してみましようというところを、ご提案申し上げました。その辺りについて、例えばというところではいかがかなと対象あるいは時期、どちらでもよろしいですけど、皆さんのほうから

ご意見いただければというふうに思います。

いかがでしょうか。

そうするとたぶん今、全員といいますか、谷口委員がおっしゃったような団体さんが何か浮かべば、その団体さんへまず実施してみるというのも一つ、その団体さんを含めてその他の団体へも実施するというのも一つあるかと思いますね。それともう一つは、例えば、柴田さんのご意見のところの団体さんもお在りかもしれませんので、何かそういうところを見るともうそれで三つか四つは団体さんが出てきた気がしないわけではないかと思いますが、そういう団体さんから、手始めに実施してみるというところがいかがかなというふうに思っていますけれどもいかがでしょうか。

例えば今年度中に実施してみて、次回の審議会のときにまでに、それを集計して、というふうになるのでしょうか。どうでしょうか。はい、事務局。

事務局：対象と時期というところで、今回も会長のほうからご提案いただいたように、一度この資料1の内容、今いただいた意見のところを修正したうえで、谷口さんや柴田さんがイメージされた団体さんも含めて、今すぐに数は出てこないですけども、少数の団体にアンケートにご協力いただいて、回答にあたって「ここがちょっと難しかった」とかも確認しながら、次の審議会のときに提出して、皆さまと「ここが回答しづらかった」「ここはこういうところで回答しやすかった」という団体の意見と、アンケートの集計結果と併せてお話しできればと考えます。

まずこれが第1弾と捉え、最初は傾向を見るというところでできればと思います。

また、アンケートを実施するとしても、今が1月末のため、年度内もしくは次の審議会までの間という形で、団体を絞って、アンケートを整えて、ご協力いただくという形をとらせてもらえればと思います。

都甲会長：はい、ありがとうございます。事務局から説明いただきましたスケジュール感と、対象団体ということですが、皆さまいかがでしょうか。

おそらく事務局より、委員の皆さまに、アンケートを実施する団体、候補対象を相談することになるのではないかなと思います。そうすると数団体ぐらいかなと。

10とか20とかっていう話はまずないと思うので、まず傾向をつかむということだと、そのぐらいの、数団体程度ということで、まずはよろしいのではないかと思います、委員の皆さまいかがでしょうか。

はい、ありがとうございます。

それでは、対象の候補ということで、後日事務局より相談があるということでもよろしいでしょうか。

事務局：はい。

都甲会長：それでは、団体のアンケートの件についての審議は以上にしたいと思いますが、委員の皆さまから何か他にご意見等ありますでしょうか。

② 行政事業報告の項目及び内容について

都甲会長：それでは、次の協議事項「(1)②行政事業報告の項目及び内容について」ということ

で、事務局、まずご説明をお願いいたします。

事務局：はい。それでは、協議事項(1)②行政事業報告の項目及び内容の資料について説明させていただきます。資料2をご準備ください。

資料2-1では、市役所の各担当課に、報告にあたって事前に確認していただきたい内容の記載となっています。資料2-2の設問5により、下部に記載の「評価」の基準の文言について、団体アンケートと同様に「貢献している・していない」を追記しております。また裏面に「文化芸術の範囲」の項目を追加しております。こちらは後ほど説明いたします。

続いて、資料2-2が行政の事業報告書本文になります。まず、確認のため、右上に記載している内容についてです。こちらの資料2-2が、これまでの「行政の事業報告書、第二期計画バージョン」のものとなり、各担当課の該当する1事業ごとに作成のうえ、審議会に提出させていただくものとなりますので、そちらをご留意いただきたいと思います。

それでは、前回審議会よりご意見いただき、修正した個所について説明していきます。

まず設問1「行政の活動目標」の④について、こちらも冒頭に「想定外の災害時でも」とありましたが、団体のアンケートで説明させていただいたとおりの理由から削除しております。

次に、設問4事業概要の中に、「活用した文化芸術の分野」の質問内容を追加しております。各担当課の事業が、文化芸術基本法のどの分野に当てはまるのかチェックしていただき、委員の皆さまにこの事業はこの分野を活用しているんだと見えるようにするため、追加しております。

次に、設問5「市民のビジョン」に関する問いに対してです。裏面になります。該当事業がビジョンに対して、どの程度貢献できたのか、という問いかけを追加しております。併せて、市民のビジョンでも④の冒頭に「市民が予期しない災害が発生したときでも」とありましたので、設問1④「災害時」と同様の理由により削除しております。

最後に、資料として提出しておりませんが、前回の資料では、総合評価という形でまとめ表を提出しておりました。こちらについては、もともと「市民のビジョン」にどれだけ貢献できたかをはかれるようにまとめ表として作成しておりました。資料2-2の報告書内にて、ビジョンへの貢献度の項目をつくったことから、まとめ表は一度取りやめにさせていただきます。

説明は以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。

これは確認になりますが、この報告書というのは1事業に1枚をつくっていくということですね。それで各課の事業について、1期のときと同様の報告書が、各課が作成した資料が添付されるというふうに理解してよろしいのですね。

事務局：はい。

都甲会長：はい、ありがとうございます。という視点で資料2-2を見ていただければと思います。はい、吉田副会長。

吉田副会長：これ各課、1事業ごとに作成ということで、事業名、担当課とありますが、実施日という項目が他にないので、報告書なので、実施された日を各事業名の下にでもあったほうがいいのかというふうに思いました。

実施日、実施期間みたいなそんな感じですかね。1日じゃなさそうですが。いかがでしょうか。

都甲会長：それについて、必要があれば項目を出したほうがいいのかと思いますが、団体のほう

は、1年間のものに対しての結果でしたから、事務局、いかがでしょうか。

事務局：分かりました。報告書ということなので実施日の項目を追加させていただきます。

おそらく設問4の事業概要のところに入ってくるかと思われます。また、事業によっては複数日設定されて実施していますので、「実施日」と表記するかは検討しますが、そのような項目をつけて出したいと思います。

都甲会長：他はいかがでしょう。はい、谷口委員。

谷口委員：前回の審議会時には事業の概要とかいうのが項目にはなかったですが、「出版物及びレコード」とかの項目もあるけれど、今の時代、そういう言葉自体、ほとんど死語に近いのですが、ぱっと見たときに行政側でも報告を書くときにレコードって何というか、たぶん今はもう死語ってというか、そのあたりが気になりました。

都甲会長：事務局、なにかありましたら。

事務局：はい。レコードという言葉は今使うのかって言われると、ちょっと苦しいところがありますが、文化芸術基本法に書いてある文言のまま表記させていただいております。

事務局：補足します。おそらくですが、世代によって知らない人たちもいるかもしれませんが、一応出どころが何かってところで説明のところ記載していますので、一旦このままいかせていただこうと思います。そういったご意見をいただいて、今後検討していく方向でさせていただければと思います。

都甲会長：はい、ありがとうございます。ということで、一つ確認ですが、これは今年度事業ということこれは各関係の部署へはいつぐらいに配布される予定ですか。2月、3月ぐらいになるのでしょうか。はい、事務局。

事務局：はい。行政の報告書を依頼する時期について、次の年度になったタイミングで行うため、5月とかそのあたりになってくるかなと思われます。

都甲会長：ということは、仮に人事異動になってしまった場合には、前任者に聞くとかっていうことになるのですかね。

事務局：年度で捉えて、ということになりますので当然引継ぎいでもらう形になります。

都甲会長：はい、松田委員。

松田委員：こちら、行政のほうでは、各担当課にそれぞれもう既に内部文書あるわけですよね。報告書というのは。ここに出す以前のもの、内部のものは当然3月末ぐらいに出来上がるのではないのでしょうか。

事務局：資料2の行政の報告書、この報告書に関しては、古賀市全体を一つの団体ととらえて一つの事業についてお尋ねする形になります。また、事業を実施する場合には、実施の伺いがあり、もちろん実施報告が出ますので、確かに3月末までには出ると思います。

ただ、これを一斉に照会する形になり、年度末ではなく、年度が終わって昨年振り返ってどうだったかという尋ね方をしたいため、年度が明けてからということをお願いをしたいと思います。

都甲会長：はい、ありがとうございます。

今の質問が、(2)の時期・対象に関わることでしたので、それも含めて、今協議をしているというふうにご理解いただければと思います。他にございますか。

はい、柴田委員。

柴田委員：設問4の事業概要のところの対象ですが、「幼少期」「学生」「子育て世帯」「シニ

ア世代」「全年齢」「その他」ですが、その世代の分け方というのが、子育て世代、シニア世代を何歳ぐらいまでされているのか、それかもう全年齢っていうのをもう少し30、40、50代とか、自分はそこには該当しないんじゃないかなという感じの年代もあるんじゃないかなと思うので、この年代の分け方が気になるのですが。

都甲会長：ここの年代は、通常報告書で使っている年代なのでしょうか。事務局、何かご説明いただければ。

事務局：はい。行政は、比較的「20歳代を対象にして事業を実施します」ということはなかなかありません。これ中身は何かと言いますと、前回からの引継ぎということで、第1期計画時のカテゴリーをそのまま引き継いでおりますので、このようにさせていただきましたが、もし違和感があるということであれば、何かこう、逆にご提案をいただけるとありがたいかなと思っています。

都甲会長：はい、ありがとうございます。柴田委員、いかがでしょうか。

柴田委員：子育て世代が、20代・30代ぐらいなのかなと思ったので、シニアとの間とかがちょっとかぶらないんじゃないのかなっていうのかなと。

松田委員：これは行政で判断をされているのではないのでしょうか。

都甲会長：きっとおそらく50代とかがなさそうだなと思ってらっしゃるのかもしれませんが。

谷口委員：ここから何か抜けているって言ったら、今結婚しない世代が多いんですよ。これですべて子育て世代とか、この辺りの年代、30代・40代・50代っていうのが、子育て世代って言ったらそれ対象じゃなくて、独身とか、そういう壮年の層が抜けているって言えば確かにそうなんですけど、そういう対象がいろいろ婚活活動でいろんなこととか、それからすると、ここから印付けにくいって全世代にいくとその辺りが集まらないかなあと。

言われたように、20代・30代・40代・50代で子どもがいないとか、独身とか、そういうところもマーケットにして、事業もされていると思うのでそこが抜けているのかなって、柴田さんのお話聞いたら思いました。

松田委員：すみません。行政はそこまで考えてないんじゃないでしょうか。団体はもう年齢で決めているので。

事務局：確かに耳の痛いお話で大変恐縮なところですが、例えば「子育て世代に向けてこういった事業ありますよ」って言った場合に、若ければ10代の方もいらっしゃるし、上の世代でも子育てでいらっしゃるところもあるので、年代で区切るよりも「子育てをされている方」、確かに一般的に年齢が違うかなと思っても「子育て世代」という括りにさせていただいています。

「シニア世代」は、もしかしたら50代後半も入るかもしれないっていうぐらいのところから、もう後期高齢の方までっていうところでも、そういう捉えをさせていただいています。

仮に入らなければ「その他」ということで、そういうところじゃないんですよってことを書いていただければいいかなという思いもちょっとあります。そういうふうに捉えていただけるといいのかな、というふうに思います。以上です。

都甲会長：おそらく基になる資料からこれをピックアップするのですよね。おそらく、この「その他」のあとに括弧がはいるのではないかなと思いましたけどね。

おそらく括弧の中で何かいろいろ書く、なんていうか、それぞれの報告書が出てきたものを転記するような形になるのではないかなと思うので、松田委員の言われるとおりなのかなあと

思いますけれど。

その時上がってきたものに対して、審議会でいろいろ審議をするといいいのかなと思います。次の審議会が紛糾するかもしれないし、よく分からないです。

はい、他はいかがでしょうか。はい、伊藤委員。

伊藤委員：今、令和6年度の方だと思うんですけど、令和5年度の分の事業報告書を見たらまた違う内容、項目が違うと思うんですけど、ということはまたこう変わっていくってことですかね。その内容は、今は、この分は、どこまでこう引き継がれるものですか。

都甲会長：はい、事務局、よろしくお願いします。

事務局：はい。令和5年度の報告書から、次に使用する報告書が変わっている、ということについてですね。やはり計画が変わったというところがありますので、計画に沿った内容にて、案を作成し、皆さまにこういう項目でどうですかと確認していただきたくて、今提出させていたでいてるところです。確かに無くした項目もありますが、やはり計画が新しくなったため、変更した項目もあります。

伊藤委員：そうしたら、7年度とか、引き続きそのまま使う、大体は同じような内容で使っていくってことですか。

事務局：6年度以降ということですかね。第1期計画のとき、5年度の報告書と、計画当初の報告書の内容は違うところがあります。やはり行政の報告書を提出しながら、審議会の中で「こういうところも聞いたほうがいいんじゃないのかな」という意見が出たと思われます。今後もそういう意見がありましたら、適宜修正をして、実施できたらと思っております。

今後は、基本的には今提出させていただいている資料2-2をベースに、行政の報告書として使えたらと思っております。

都甲会長：はい、いかがですか。たぶん団体もですが、行政も、一旦実施してみて、その結果が次の審議会に出てくると思いますので、それを委員の皆さんと協議すればよろしいのではないかなと思います。そういう意味で、結構楽しみだなと思った次第です。

はい、もし他に質問等がなければ、議事の進行を事務局のほうに戻したいと思います。

どうもありがとうございました。

4 その他

5 閉会のことば